

## 平成19年度 市民活動支援センター事業報告

### 平成19年度事業総括

市民活動支援センターの第1期受託期間が平成19年度で終了することに伴い、受託団体を選考するコンペが開催されました。その提案書を作成する過程は、3年間の運営のあり方を見直す機会ともなりました。

センターの活用という面では、少しでも質の高いサービスの提供、使いやすいセンター、開かれた運営を進めてきました。また、市民活動支援策としてはニーズが高いといわれる「人」「物」「金」といった部分で、人材育成講座やコーディネート、備品の貸し出し、助成金制度の設立など、少しずつ充実を図ってきました。

そして、地域の課題、潜在的なニーズを日々の相談対応から拾い上げるとともに、市民活動団体をはじめとした地域の人々や学校、企業、行政など、さまざまな立場の人たちとの信頼関係を築き、共にその課題やニーズを解決することを目指してきました。

こうしたセンター運営の土台づくりを進める一方で、本当に必要な機能を備えているのか、中間支援組織としての役割を十分に果たしているのか、という自問が常にあるのも正直なところです。

これからまた5年間にわたって再受託していくことがきまりました。運営委員会を中心に、今年度あるいはこれまでの3年間の総括をふまえて、運営方針、サービスをつくりあげていく節目の年でありました。

## 個別事業

## 第1 センターおよびブランチの運営

## 1 市民活動支援センター運営委員会の開催

住民の主体的な活動を支援し、市民参画型のまちづくりを積極的に進めるため、毎月1回市民活動支援センター運営委員会を開催し、センター事業についての協議をおこなった。

## 市民活動支援センター運営委員会

任期：H19.4.1～H21.3.31（敬称略・50音順）

氏名	主な活動、所属など
岩松 真也	調布エフエム株式会社
上田 英司	特定非営利活動法人NICE
宇津木 光次郎	調布市生活文化部協働推進課
尾関 葉子	DADAアフリカと日本の開発のための対話プロジェクト
金子 日出澄	市民活動支援センター
熊谷 紀良	東京ボランティア・市民活動センター
小泉 伸子	調布WAT
小林 孝	特定非営利活動法人調布市青少年事業団
阪井 伸子 (副委員長)	調布市地域福祉活動計画策定委員、ミニデイ活動ボランティア
佐藤 勇治	特定非営利活動法人全国教育ボランティアの会
島村 誠	調布市立第六中学校教育コーディネーター
日比生 信義 (副委員長)	林建設株式会社
山口 昌之 (委員長)	株式会社やまぐち
山本 縁	調布市登録手話通訳者
若林 裕子	野ヶ谷の郷運営スタッフ
和田 敏明	ルーテル学院大学教授

平成19年度 市民活動支援センター運営委員会開催状況

第1回	4月19日	委嘱状交付、自己紹介、正副委員長選出、常任委員指人、市民活動支援センター運営要綱について、平成19年度運営方針、事業計画について、委員会年間スケジュール、スタッフ紹介（出席委員：13人）
第2回	5月17日	【審議】平成18年度市民活動支援センター事業報告について、平成18年度市民活動支援センター決算報告について【協議】えんがわファンド選考委員会の選任について【報告】常任委員会について、運営委員会開催スケジュールについて（出席委員：14人）
第3回	9月6日	【協議】企業と地域の連携事業について【報告】えんがわファンド選考結果について、市民活動支援センター運營業務委託の見直しについて、資金収支流用予算について、実施事業報告（出席委員：11人）
第4回	10月29日	【報告】調布市市民活動支援センター受託選考にかかる企画提案書の提出について【協議】えんがわフェスタ2008について【事務連絡】えんがわミーティング、避難所生活体験講座、やあやあドリームオールスターズ実施報告（出席委員：12人）
第5回	12月6日	【審議】社会福祉法人調布市社会福祉協議会サポーター会員制度要綱の一部を改正する要綱について、社会福祉法人調布市社会福祉協議会電話代行サービス実施要綱の制定について【協議】えんがわファンド助成団体活動見学、えんがわフェスタ2008、チャリティウォークについて、【報告】市民活動支援センター受託団体選考コンペの結果について（出席委員：10人）
第6回	12月11日	【審議】社会福祉法人調布市社会福祉協議会サポーター会員制度要綱の一部を改正する要綱について、社会福祉法人調布市社会福祉協議会電話代行サービス実施要綱の制定について（出席委員：14人）
第7回	2月7日	【審議】社会福祉法人調布市社会福祉協議会市民活動支援センター運営要綱の一部を改正する要綱について、平成20年度事業方針・重点項目（案）について【協議】平成20年度事業計画（案）について、えんがわフェスタ2008について【報告】チャリティウォークについて、えんがわファンド次年度の方向性について（出席委員：14人）
第8回	3月4日	【審議】平成20年度事業計画(案)について、平成20年度事業予算(案)について【報告】えんがわフェスタ2008について、チャリティウォークについて、えんがわファンドについて（出席委員：11人）

## 2 市民活動支援センター利用者会議の開催

広く利用者の声を直接聞く機会を設けるとともに、利用者間の横のつながりを活性化することを目的として実施。18年度より「えんがわミーティング」というタイトルをつけた。

### 第1回 えんがわミーティング

日時	平成19年6月2日(土)午後2時～午後4時
会場	市民活動支援センター 活動スペースはばたき
参加者数	参加者23人、スタッフ7人、運営委員1人
<p>1 目的</p> <p>幅広い市民参画によるセンター運営を目的に開催していた「利用者会議」の通称として、平成18年度より「えんがわミーティング」とした。誰もが気軽に参加できる会を目指しつつ、市民の「交流の場」、また「学びの場」とすることを目的とする。なお、平成19年度の第1回では、「ボランティア活動と子どもたち～地域での教育をベースとして～」と題し、子どもたちのボランティア活動の活性化に向けて当センターの事業の1つである「調布サマーボランティア」を事例として今後の対応を検討する目的で開催した。</p> <p>2 プログラム</p> <p>ご挨拶 調布サマーボランティア 07 都立高校「奉仕体験活動」について 参加者自己紹介&amp;活動紹介 質疑応答&amp;意見交換会 テーマ「ボランティア活動と子どもたち～地域での教育をベースとして～」 市民活動支援センターの利用について</p> <p>3 内容</p> <p>「ボランティア活動と子どもたち～地域での教育をベースとして～」と題し、子どもたちのボランティア活動の活性化に向けて、教員、体験先の福祉・文化施設やNPO・ボランティアグループの担当者、地域の老人クラブ関係者など、調布に関わる様々な立場の人々が一堂に会し、ディスカッションを行った。その一例として、調布サマーボランティアを紹介させて頂き、さらに平成19年度より必修化された都立高校の「奉仕体験活動」について、都立神代高の教員よりお話しして頂いた。</p> <p>参加費： 無料</p>	

## 第2回 えんがわミーティング「えんがわブックカフェ～本の魅力、私の1冊～」

日時	平成19年11月22日(水)午後6時30分～午後8時30分
会場	市民活動支援センター 活動スペースはばたき
参加者数	利用者12人、スタッフ6人
1 目的	平成19年度の第2回では、「えんがわブックカフェ～本の魅力、私の1冊～」と題し、当センターを活動拠点とする本の朗読やストーリーテリングを行う生涯学習グループおよび市内で新たに立ち上げた、本の大切さを訴えるNPOを紹介するとともに、ゆっくりと秋の夜長を楽しむことを目的として開催した。
2 プログラム	ご挨拶 トークショー おはなし会 交流会
3 内容	<p>トークショー テーマ： 「本の魅力、私の1冊」</p> <p>ゲスト： 座間 直壯(ざま なおよし)氏 (NPO共同保存図書館・多摩理事長、元調布市中央図書館長)</p> <p>おはなし会</p> <p>ゲスト： おはなしグループひょうたん島</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ストーリーテリング『ちゃあくりがきす』 (藤田浩子著「かたれやまんば第二集」より)</li> <li>・ストーリーテリング『スヌークスさん一家』 (東京子ども図書館編「愛蔵版おはなしのろうそく1」より)</li> <li>・読み聞かせ『鹿よおれの兄弟よ』 (神沢利子 作 福音館書店刊)</li> <li>・朗読『秋の夜長に』 (半村良 作 作品社刊「日本の人随筆19秋(山本健吉編)」より)</li> </ul> <p>活字離れが騒がれる昨今、「読書の秋」をもとに本の魅力について考えてみよう、というのが、今回のテーマである。プログラムの1つである「トークショー」では、かつて、図書館に勤務した経験から年間50万～60万冊(多摩地区の公立図書館)処分されていく古い書籍を保存し、市民の皆さんに有効活用してもらおうという仕組み作りを行っているというNPOの設立背景の他、図書館の活用方法を示した本の紹介をしていただきました。また、「おはなし会」では、当センター利用団体よりえんがわセットにて、本の読み聞かせやストーリーテリングを行い、活動を紹介する場として活用して頂いた。</p> <p>「本」というキーワードから市内で活動するタイプの異なる2団体との接点をもつことができた。</p>

## 第3回 えんがわミーティング「今夜は笑顔でパーティー！」

日時	平成20年2月20日(水)午後6時30分～8時30分
会場	市民活動支援センター 活動スペースはばたき
参加者数	利用者38人、スタッフ3人
1 目的	「笑い与健康」がテーマである「えんがわフェスタ」につなげつつ、団体の方にとって事務作業に追われがちな年度末に、笑顔でハッピーになれるようなイベントを開催することで、来る平成20年度への弾みをつける。また、従来の「えんがわミーティング」同様、市民活動団体同士ヨコのつながりを築くことを目的とする。
2 プログラム	ご挨拶 テーマ紹介 あいさつビンゴ(参加者の自己紹介を兼ねたビンゴゲーム) 2007年のハッピーニュース(ゲストファシリテーター:横山泰治氏 特定非営利活動法人ちょうふどっとこむ)、笑顔にまつわるエトセトラ(講師:渡辺浩子氏 紫音主宰、ウェルネスコーディネーター)、交流会
3 内容・考察	今回は、パーティー形式で、アイスブレイキングとしてゲーム(あいさつビンゴ)の導入し、一気に盛り上がった。また、「2007年のハッピーニュース」では、フィリップボードに「活動当初の気分」と「現在の気分」をスタッフが用意した様々な顔のパーツからその時の気分に見合った表情を選び、比較できるようにした。それを昭和30年代の芸人風に仮装したゲストファシリテーターが何人かピックアップし、えんがわセットにてその気分の変化をインタビューした。 その後の「笑顔にまつわるエトセトラ」では、活動に行き詰った時の気分転換の方法の提案についてお話しいただきました。その中で、頭を使った体操や2種類のハンドベルの音色を聴き分け、どちらの和音が各々にとって心地よいか、ということを検証し、ゆったりとした音楽に合わせた呼吸法を学ぶことができた。その影響もあって、参加者がリラックスした状態でコミュニケーションを図ることができよう。

## 成果・反省点・課題

市民活動支援センターとして取り組んできた利用者会議であるが、平成17年度の反省より本来の目的の1つである「利用者間の横のつながりを構築し、交流を活性化させること」を推進するべく、ゲストを招き、「学びの場」とすると共に交流の場としての「えんがわミーティング」を確立させた。平成19年度では、それに加えて、開催日程の近い他の事業とリンクさせることを目指し、「調布サマーボランティア」や「えんがわフェスタ」などにつなげることができた。また、第3回では、パーティー形式ということもあり、参加案内を「招待状」としてカードを利用者に送った。そこで今回、成果としては、魅せ方の工夫を行い、参加人数を過去最高のものにできたことである。

なお、課題としては、1つ1つの企画内容は、参加者にとって高評価を頂いているもののいまひとつ「えんがわミーティング」としてのコンセプトの統一感が出せていないところではないだろうか。

### 3 市民活動支援センターサポーター会員制度

自立した市民社会の創造、住民参加型のまちづくりの実現を目指すセンターの方針に賛同し、センター運営を資金面から支えていただくサポーター会員制度が設置されて3年経過した。サポーター会費は市民交流事業・えんがわファンドの原資として活用した。

サポーター会員数：41口（内訳：29団体、4人 複数口の加入もあり）

活動分野：情報化、福祉（児童、障害児・者、高齢者）、生涯学習、リサイクル・環境、歴史・文化・芸術、子育て・教育、国際協力・交流、生活環境づくり、男女共同参画、心理など

## 4 市民交流事業の実施

## えんがわフェスタ2008「えんがわ寄席 ～笑う町には福来たる～」

「笑い与健康」をテーマに、市民交流事業を実施した。内容は、落語や大喜利などのステージ・プログラム、NPO や企業による出展コーナーや健康グッズ体験コーナーなどで、来場者は、約300人であった。

開催日	3月15日(土) 午前10時～午後3時
会場	調布市市民プラザあくろす市民活動支援センター
来場者数	約300人
主催	調布市、社会福祉法人調布市社会福祉協議会
企画・運営	市民活動支援センター運営委員会
協力	(株)ナムコ、調布FM放送(株)、特定非営利活動法人ちょうふどっとこむ、(株)ウィード、電気通信大学ジャグリングサークル Passage、明治大学落語研究会、中央大学落語研究会、金子スポーツ振興(株) (順不同)

## プログラム

時間	内容	出演者
11:00～11:05	ごあいさつ	阪井伸子(市民活動支援センター副運営委員長)
11:05～11:20	お囃子	金子囃子連
11:20～11:50	大道芸	電通大ジャグリングサークル Passage(ばさーじゅ)
11:50～13:00	お仲入り(休憩)	
13:00～13:35	素人芸人えんがわ笑(ショー)	市民公募(漫才、大江戸玉すだれ、古典落語)
13:35～13:40	お仲入り(休憩)	
13:40～14:10	古典落語	立川らく朝さん
14:10～14:20	お仲入り(休憩)	
14:20～14:50	市民大喜利	明大落研+調布の なる人々!
14:50～15:00	終了	



展示・体験・販売コーナー 10:00～15:00

出展団体一覧

	団体人	内 容
1	おとなも楽しむおはなし会	紙芝居とストーリーテリング
2	グリーンズ会	パソコンでカレンダーづくり
3	高次脳機能障害者のつどい「調布ドリーム」	おしるこ販売と活動写真等の展示
4	首都圏建設産業ユニオン調布支部 建築センター テクノ・ステージ	人にやさしいものづくりのパネル展示 バランス工作 ワインボトルラック
5	NPO 法人全国教育ボランティアの会	「こんにゃく作り」の体験と試食
6	調布市民放送局	番組放映
7	社団法人調布青年会議所有志	おでん販売
8	調布パソコンサークル	パソコンで人刺・カレンダー・Tシャツづくり
9	調布わいわいサロン 地域デビュー歓迎会実行委員会	活動・イベントのPR 展示
10	NPO 法人 do be くらぶ	パソコンでお絵描き
11	NPO 法人 NICE	活動写真展示
12	ボランティアグループだんでらいおん	えんがわ茶席、縁日
13	みつわ会	手芸作品展示

協力企業

	企業名	出展内容
1	株式会社ナムコ	脳トレゲームコーナー
2	金子スポーツ振興株式会社	体組成成分分析装置インボディ

えんがわフェスタ 2008 企画運営委員会

氏 名	所 属 ・ 主な活動団体
宇津木 光次郎	調布市役所生活文化部協働推進課長
山口 昌之	市民活動支援センター運営委員長、(株)やまぐち
阪井 伸子	市民活動支援センター副運営委員長、ボランティアグループだんでらいおん
上田 英司	市民活動支援センター運営委員、特定非営利活動法人 NICE

(敬称略・五十音順)

成果・反省点・課題

\* 「市民活動」を市民の方々により身近に感じて頂くために、毎年、「えんがわフェスタ」は、トレンドに合わせたテーマを設定している。今回は、「笑い与健康」というテーマのもと、寄席を実施することとなった。しかし、当の企画がなかなか固まらなかったため、ゲスト選びや日程調整に時間がかかってしまったことは反省したい。また、このテーマで出展団体が一体感を出すのは難しいとの声も聞かれ、センターで開催するときの意義をもう一度見直すことが必要ではないかと感じた。

\* 今回、参加者が300人であった。これは、「えんがわフェスタ」となって3回目となり、少しずつではあるが、周知され、固定客が出てきたことと、落語が朝の連続テレビ小説などでタイムリーな話題であったため、多くの来場者を得ることが出来たのではないだろうか。

\* さらに、電気通信大学ジャグリングサークル Passage や明治大学落語研究会、中央大学落語研究会など学生との協力関係を築くことができたほか、他の事業でつながりのある企業からも協力が得られるなど、センターが持つ人脈を最大限生かすことができた。

\* 今後は、このネットワークを地域の市民活動団体とつなげ、広がりのある市民交流事業にしていきたい。

## 5 小島町コーナーボランティア活動室利用者会議の開催

市民活動支援センター・小島町コーナーでは、ボランティア登録団体の皆さまに活動室やメールボックス等の貸し出しを行っている。年に1度、ボランティア活動室を利用している団体を対象にボランティア活動室利用者会議を開催。この会議では、ボランティア活動室利用方法の確認やボランティア活動室の運営がより円滑に利用出来るため利用団体の声を聞く機会となることと同時に利用者間の横のつながりを活性化することを目的としている。

日時	平成20年3月5日(水)午前10時~11時30分
会場	総合福祉センター(2階) ボランティア活動室
参加者数	利用団体10団体12人、スタッフ3人
<p>1. プログラム 事務局より 活動室利用について メールボックス・棚の利用について その他2. 内容 活動室利用方法の確認 ・予約受付開始 ・定例活動について ・棚の利用について ・メールボックスについて メールボックス・棚の利用について ・棚の利用を希望する団体に提供する ボランティア利用室利用者会議に初めて参加した2団体を紹介する 市民活動支援センター・小島町コーナーの開所日変更について、ご理解をいただくよう説明する</p>	

## 成果・反省点・課題

- \* 棚を希望する団体に提供することができた 物品の保管場所にならないよう再確認をした。
- \* 市民活動支援センター小島町コーナー開所日変更について説明した。
- \* キャンセルの連絡について、キャンセルが決まった時点ですぐに連絡を入れていただくよう、あらためてお願いをした。
- \* 定期的な活動を希望する2団体が4月からボランティア活動室を利用して活動することを参加団体に報告した。
- \* 会議を重ねるごとに、団体同士交流が深まり協力関係ができ、ボランティア活動室運営が効率良くなった。

## 6 「野ヶ谷の郷」

梅の湯商店会の空き店舗を利用して、平成16年11月1日にオープンした市民活動支援センター6番目のブランチ。他のコーナーとは異なり、コーディネーターを配置せずに市民（野ヶ谷の郷運営委員会）が運営している。

## (1) 概要

機能	ボランティアビューロー機能 貸スペース機能 福祉ショップ機能 地域活動拠点機能 活動発表ギャラリー
開設日	火・木・土 ボランティアスタッフが当番で開設
貸出日	毎日
スタッフ人数	24人（うち役員5人）

## (2) 総会・交流会

日時	4月14日（土）午前11時～正午
内容	以下の議案を提案し、承認された。 ・平成18年度事業報告 ・平成18年度決算 ・平成19年度事業計画（案） ・平成19年度予算（案） 総会終了後、交流会を開催した。
参加者	20人、委任状提出4人

## (3) 野ヶ谷の郷運営委員会役員（敬称略・50音順）

井垣 裕子（副代表）	ミニデイ深大寺東町ひだまり代表
磯野 幸子（会計）	上ノ原地区青少年健全育成委員
百合田 紀恵子（会計監査）	ミニデイ深大寺東町ひだまりスタッフ
四家 綾子（代表）	ひだまりサロン立ち上げスタッフ
若林 裕子（書記）	市民活動支援センター運営委員

## (4) 役員会

第1回	6月16日（土） 午前10時～12時	商店会まつり「納涼祭」への参加について、夏休みイベントについて、ご近所支えあい隊について、野ヶ谷の郷だよりについて、調布中学校ボランティア体験について
第2回	8月18日（土） 午前10時～12時	商店会まつり「納涼祭」への参加について、夏休みイベント「工作教室」について、防災講座について、野ヶ谷の郷だよりについて

第3回	10月27日(土) 午前10時~12時	「みんなの夢ツリー」への参加について、野ヶ谷郷市民活動団体助成要項(案)について、野ヶ谷の郷だよりについて
第4回	1月26日(土) 午前10時~12時	平成20年度総会・交流会について、春休みイベントについて、スタッフ募集について、防犯講習会について、野ヶ谷の郷だよりについて
第5回	3月14日(金) 午前10時~12時	平成20年度総会・交流会について、春休みイベントについて、野ヶ谷の郷だよりについて、ボランティア入門講座「はじめての一步」について

(5) 野ヶ谷の郷だより発行

野ヶ谷の郷や地域の情報を発信するため、「野ヶ谷の郷だより」を計5回発行した。

夏号(13)	夏休みイベント「工作教室」・防災講座の案内、ご近所支えあい隊のお知らせ
9月号(14)	夏休みイベント「工作教室」・テーブルお手前の報告、商店会まつり「納涼祭」の報告、ボランティア募集
11月号(15)	今後のイベントの案内、ご近所支えあい隊の経過報告
1月号(16)	「みんなの夢ツリー」の報告、ギャラリー紹介、防犯講習会の案内
3月号(17)	春休みイベント「春をみんなで歌おう」の案内、調布ボランティアまつりの案内

(6) サークル活動

貸スペースを利用しているサークル活動は、10団体となっている。地域の活動の拠点として、様々な人や団体が利用している。

自主活動サークル

団体名	活動内容	活動日
囲碁同好会	囲碁	毎週金曜日
麻雀同好会	麻雀	第1・3木曜日、第2・4火曜日
筆字会	書道、篆刻(てんこく)	第1・3・5水曜日
お茶を楽しむ会	お茶とおしゃべり	第2・4月曜日
表装同好会	表装	第2・4月曜日

野ヶ谷の郷運営委員会による活動サークル

団体名	活動内容	活動日
男性の料理教室	料理、会食	第2土曜日
絵を描こう会	絵画	第1・3土曜日
パッチワークの会	パッチワーク	第4木曜日
テーブルお点前	お茶会	第4木曜日
折り紙教室	折り紙	第3(4)火曜日

(7) 梅の湯商店街まつり「大納涼祭」

梅の湯商店会会員として、商店街まつりに参加した。

開催日時	8月27日(月)午後3時～6時
会場	「梅の湯」駐車場
参加内容	野ヶ谷の郷の開放、オリジナルうちわの配布、模擬店手伝い

(8) 春休み・夏休みイベント

子どもから高齢者までが楽しみながら交流するイベントを、春休みと夏休みに合わせて開催した。

内容	開催日時	来場者数
スプリングコンサート	4月14日(火)午後1時30分～3時30分	30人
工作教室「動く・ほえる 恐竜づくり」	8月23日(木)午前10時～午後4時	50人
大人の「テーブルお手前」	8月23日(木)午後1時～5時	20人

(9) 講座・講習会

地域住民を対象に、防災・防犯といった生活に密着したテーマの講習会を開催した。

内容	開催日時	来場者数
防災講座「災害発生！いざというとき、どうする？」 講師：調布市総合防災安全課職員	9月4日(火) 午後1時30分～3時30分	27人
防犯講習会「狙われている！調布に詐欺が続発！！」 講師：調布警察署員	2月5日(火) 午前10時～11時30分	25人

(10) ボランティア入門講座「はじめの一步」

はじめてボランティア・市民活動に参加する方やボランティア・市民活動について知りたいという方を対象に、ボランティア入門講座「はじめの一步」を開催した。

開催日時	参加者数	スタッフ数
4月24日(火)午前10時~12時	0人	1人
10月27日(土)午後1時~3時	0人	1人
3月25日(火)午後1時30分~3時30分	5人	1人

(11) ボランティア体験の受け入れ

調布市立調布中学校の生徒5人のボランティア体験活動を、9月11日(火)、13日(木)の2日間受け入れた。

(12) 市民活動団体助成

野ヶ谷の郷を拠点として、これから活動を始めようとするボランティア・市民活動団体に対して立ち上げ資金の一部(5,000円を上限)を助成し、その活動が円滑に進められるよう支援することを目的に、実施した。

	団体名	助成額(円)	活動内容
1	ご近所支えあい隊	5,000	日常の生活上のちょっとした困りごとを、地域住民同士で支えあう活動

成果・反省点・課題

- \* 新規のボランティアが増えていない。いかに地域の方にボランティアとして参加してもらうかが課題。
- \* 防災や防犯といった、生活に密着した講座を実施したところ、多数の参加者があり、関心の高さをうかがうことができた。平成20年度も、地域住民のニーズに合わせた講座を継続して実施していきたい。
- \* ふれあいの間(貸スペース)の利用率は81%(平成18年度は59%)となっており、サークル活動だけでなく、深大寺地域で活動する様々な団体の活動拠点として活用されている。

## 第2 情報・資料の収集および提供

### 1 えんがわだよりの発行

ボランティア・市民活動情報を提供するため、毎月発行。隔月にタウン誌折込をおこなうなど配布先拡大、市民の手にわたる配布方法を工夫した。

#### (1) 概要

発行目的	市民活動に関する情報や市民活動支援センターの活動報告、ボランティア募集等を含めた内容で、センターを多くの方々に知ってもらい、利用していただくこと、また市民活動を促進し市民主体の支えあうまちづくりをすすめていけるよう課題を提起することを目的としている。
発行日	毎月15日発行
発行部数	・奇数月 3,500部(タウン誌182へ2,000部折り込み 菊野台地区) ・偶数月 1,500部
配布先	・市内公共施設(地域福祉センター、図書館、児童館、青少年ステーションCAPS、公民館、体育館、小学校、中学校、高校、大学、郵便局、京王線駅頭など) ・市内企業 ・市民活動支援センターサポーター ・東京ボランティア・市民活動センターほか都内ボランティア・市民活動センター
内容	・特集記事(課題提起やまちの話題紹介など) ・ボランティア募集 ・市民活動支援センターの活動報告やお知らせ ・地域の市民活動情報、助成金情報など

#### (2) 各号の特集記事の内容

号数	内容
4月号(24)	平成18年度えんがわファンド活動レポート 「団塊世代とライフスタイル」
5月号(25)	第2期市民活動支援センター運営委員会がスタート
6月号(26)	「私にできること...明日の、そして、ずっと先の地球環境を考える」
7月号(27)	「人生を10割楽しみたい よくばり団塊世代への提言」 (えんがわフェスタ2007トークショーより)
8月号(28)	「ハラハラドキドキ、ひと夏のボランティア」 (調布サマーボランティア07の紹介・分析)
9月号(29)	「考えてみよう!自分でできる災害対策~9月1日は防災の日~」



10月号(30)	「生ゴミは宝! ~調布・食の安全と生ゴミリサイクルの会~」
11月・12月合併号(31)	「the団塊 NPOは社会を変えるか?」からみえてきたもの
1月号(32)	平成19年度えんがわファンド活動レポート
2月号(33)	平成19年度えんがわファンド活動レポート
3月号(34)	平成19年度えんがわファンド活動レポート

成果・反省点・課題

- \* 毎月の定期的な発行は達成できたが、記事の内容、配布先の見直しなど広報誌としての役割や効果を検討するとともに、編集・配布ボランティアの導入についても考えていきたい。また、市民の手にわたり、その情報がどのように活用されているのか反響・成果(ボランティア募集項目)等など直接の反応が伝わってこないのが、その点の追跡調査をするなどの検討も必要。
- \* スタッフによるブックレビューなど、新しい内容も試みた。今後も、多くの方に手に取ってもらえるような工夫を検討していきたい。

## 2 えんがわだよりオンライン(えんがわだよりブログ版)

3月より、シーサー株式会社運営無料ブログサイトを活用し、WEB上で「えんがわだより」の配布を開始した。

過去記事の閲覧ができるよう編集作業をすすめるとともに、スタッフが日常の中で感じたことやお知らせを書き込むなど、タイムリーな情報発信手段として活用していきたい。

## 3 市民活動支援センターホームページ運営

登録団体数については、市内のNPO法人「ちょうふどっとこむ」などや調布市立図書館の市民の手によるまちの情報発信事業である「まちの資料情報館」のサイトと情報共有を図り、現在約270の団体登録がある(前年度比20団体増加)。

ホームページの構成については、市民活動団体の情報の受発信(イベント予定や内容の報告、新規メンバー、ボランティア・参加者募集など)を支援すると同時に、より多くの市民が市民活動に関わるきっかけを得る媒体のひとつとして情報の基盤整備、ページの見易さ、使いやすさを工夫するなど随時充実を図っている。

2007年7月からは調布市の生涯学習・市民活動情報システム「さがす見つかるシステム」と連動することにより、より一層市民にとっての「必要な情報が、必要なときに、必要な人に提供されるシステム」に近づいたといえる。

さらに、現在毎月紙媒体にて発行されている「えんがわだより」をインターネットでも閲覧できるようにするため「えんがわだよりオンライン」を設置し、ボランティア募集などの情報はホームページの機能と連動した上で特集記事をカラー写真つきで公開しなおすなど、より市民に親しまれるサイトとするために絶えず改善を行っている。

今後も、さまざまなネットワーク間、団体間の情報共有、センター及びコーナーの事業予定を紹介してきながら、センターのサービス内容や報告等に関する情報提供にも力を入れていきたい。

平成19年度は約56,000件のアクセスがあり、昨年度と比べ11,000件のアクセス増加となった。（昨年度比126%の増加率）

市民活動支援センターホームページアクセス数集計				
月	前年度比	平成19年度 アクセス数	平成18年度 アクセス数	平成17年度 アクセス数
4	95%	3679	3861	2236
5	130%	4695	3605	2412
6	117%	4237	3636	2690
7	0%	システム変更の為計測せず	4066	3051
8	157%	5839	3718	3682
9	143%	5433	3799	3099
10	164%	5982	3641	2262
11	121%	5187	4281	2947
12	138%	4906	3553	2666
1	142%	5694	3997	3308
2	157%	5455	3464	3177
3	145%	5133	3547	3613
	合計	56240	45168	35143
	平均増加率	平成19年度 平均アクセス数	平成18年度 平均アクセス数	平成17年度 平均アクセス数
	126%	5113	3764	2929

成果・反省点・課題

\* 18年度に引き続き、市民団体向けIT講座を通しての団体の活用度の向上を図るとともに、19年度より連携を開始した「さがす見つかるシステム」との相互協力により、市民にとってのわかりやすい情報提供を心がけたい。

#### 4 資料コーナーの充実

ボランティアやNPO活動関連だけでなく幅広い分野のチラシやポスターを配架掲示して、イベントや講座の開催、ボランティア募集等の多くの情報を提供した。また、調布市のみならず、都内で市民活動の拠点となっているセンターや施設、団体のニュースレターを閲覧と保存のため分野に分けファイルしている。閲覧用の図書や報告書類も積極的に収集している。

平成19年4月～20年3月に受入れたチラシ等の内訳

内 容	講座・講演	953件	分 野	高齢者・子ども	250件
	イベント	1015		ボランティア全般	586
	団体・活動紹介	823		障害児・障害者	234
	ボランティア募集	307		地域・まちづくり	665
	助成金	241		文化・芸術・スポーツ	446
	その他	724		環境保護	126
	計	4063件 (前年度比4%増)		国際交流・協力	117
体 裁	チラシ	941	その他	949	
	ニュースレター	854	計	3373 件(前年度比5%増)	
	ポスター	296			
	パンフレット他	336			
	計	2,218部 (前年度比9%増)			

主要雑誌6タイトルを定期購読

誌名	出版社	刊行頻度
ネットワーク	東京ボランティア・市民活動センター	隔月刊
ウオロ	大阪ボランティア協会	年10回
NPOマネジメント	IIHOE(人と組織と地球のための国際研究所)	隔月刊
ボランティア	富士福祉事業団	毎月
C'sニュースレター	市民活動を支える制度をつくる会 C's	隔月刊
NPOのひろば	日本NPOセンター	季刊

\* その他の受入雑誌・・・「月間福祉」(全国社会福祉協議会発行) ホームレスの仕事をつくり自立を応援する「ビッグイシュー日本版」など

### 閲覧用図書・報告書類の充実

今年度新規受け入れタイトル・・・130タイトル

<内訳>	市民活動関連	36	タイトル
	福祉関連	27	タイトル
	その他	67	タイトル

本の分類、図書ラベルの貼付、「分野別所蔵リスト」の作成

全図書、レポート類を分類し図書ラベルを貼付、分野ごとに配架をしている。分野別所蔵リストをファイリングし設置することによって、より利用しやすくなった。

### 視聴覚資料の設置

本年度から視聴覚資料の設置をおこなった。市民活動支援センターがおこなった過去の事業（えんがわミーティングなど）を掲示することにより、当センターの理解を深め、情報を共有することを目的とした。その他に市民活動や地域情報などに関する視聴覚資料も設置している。

市民活動支援センター事業	5
その他	1
合計	6

「企業のCSRレポート」展示コーナーの設置（平成18年9月～）

市民活動と企業との協働という視点から、主要企業約150社発行のCSRレポートを収集し、利用者の方に手にとってみていただけるよう展示している。

\* CSR : Corporate Social Responsibility の略で「企業の社会的責任」と訳されている。

### 成果・反省点・課題

- \* 図書の分類、図書ラベルの貼付、リストの作成、ニュースレターファイルやチラシを分野に分け、見出しをつけるなど前年度からの作業を完了したが、これからも利用者が欲しい情報を的確に提供できるよう、続けて工夫していきたい。
- \* 前年度に引き続き、チラシやニュースレターなど資料を積極的に収集した結果、今年度は充実を一定図ることができた。それを踏まえ今後は利用者への周知徹底をはかりたい。
- \* 新たな試みとして視聴覚資料を設置した。今後、資料数を増やしていくと共に利用者へ資料の活用を促したい。

## 5 ふくしの窓3 - 4面「市民活動支援センターだより」の充実

隔月発行（新聞折込）のふくしの窓の3 - 4面を「市民活動支援センターだより」全面に載せ、ボリューム、内容ともに充実を図った。

## 6 多様なメディア（媒体）を活用した情報提供

J - COM 株式会社（CATV）、調布 FM 株式会社、タウン誌（182ch、くろすとーく）、地域ポータルサイト（ちょうふどっとこむ）各社のご協力を得て、多角的な情報提供に取り組んだ。

## 7 市民活動・生涯学習団体ガイドブックの作成

調布市生涯学習情報コーナーと協力し、市内の市民活動団体（NPO 法人含む）生涯学習サークルの紹介冊子を作成した。

## 8 第27回調布ボランティアまつり

調布市内で活動するボランティア・市民活動団体が、活動の発表・展示・体験・実演、模擬店、バザー等を通して広く市民に活動への参加・交流をはかることを目的に実施した。

事業の目的としてはさまざまな側面があるが、PR要素が強いということで、この項に記載している。

開催日時	4月22日(日)午前9時45分～午後2時 強風のため、1時間繰り上げて終了した。
会場	調布市市庁舎前庭
主催	調布市社会福祉協議会 第27回調布ボランティアまつり実行委員会
内容	活動発表・展示、活動の体験・実演、模擬店、バザーなど
参加者	約500人

## 参加団体 27団体

No	団体名	内容
1	あむあむサークル	手芸体験、販売
2	NPO京王断酒会	酒害相談、アルコールパッチテスト、販売
3	菊野台点字サークル	点字体験
4	グループなごみ茶屋	販売
5	高次脳機能障害者のつどい 調布ドリーム	模擬店、発表「トーンチャイム演奏、創作ダンス」、活動展示
6	手話サークル くすの木	手話体験
7	手話サークル「調布の会」	発表「手話コーラス」
8	障害を負う人々・子ども達と「共に歩む」ネットワーク	販売、活動展示
9	深大寺人と緑と犬の会	販売、捨犬保護活動紹介
10	スペース・クッション	販売
11	SOGIサポートセンター Lin MC Group	葬送相談
12	調布災害時ボランティアコーディネーターの会(調布SVC)	ほのぼのあかり体験、アルファ米の試食
13	調布市登録手話通訳者の会	舞台手話通訳、販売
14	調布の自然学習ボランティア	模擬店
15	調布ボランティア連絡会	活動展示
16	調布まちづくり市民フォーラム	模擬店、販売
17	調布WAT	販売
18	東京YWCA国領センター	販売、活動展示

第3部 市民活動支援センター

19	パッチワークグループ「ログキャビン」	販売
20	姫としもべ	発表「バンド演奏」
21	ホットなハウス	販売、相談（心の相談、育児、介護など）
22	ボランティアグループだんでらいおん	ゲームコーナー、茶席、発表「手話コーラス、ロックソーラン」
23	まちっこくん	販売、活動展示
24	やあやあネットワーク	活動展示
25	わりばしリサイクルグループ 「くるりん」	販売、活動展示、わりばし回収
26	調布市社会福祉協議会 自主バザーグループ	模擬店、販売
27	市民活動支援センター	ボランティア・市民活動相談、模擬店

実行委員会の開催状況

回数	開催日時	開催場所	内容
第1回	平成18年度 12月11日（月） 午後6時30分～8時	総合福祉センター 201・202会議室	実行委員長及び世話人の選出、日程の決定、内容について
第2回	1月22日（月） 午後6時30分～8時	総合福祉センター 203会議室	参加団体の確認、役割分担について、実施要項について
第3回	2月19日（月） 午後6時30分～8時	総合福祉センター 203会議室	参加団体の内容・備品の確認、会場配置の決定、チラシについて、役割分担ごとの打合せ
第4回	3月12日（月） 午後6時30分～8時	総合福祉センター 203会議室	搬入・搬出の確認、前日・当日のボランティアについて、広報について
第5回	平成19年度 4月17日（月） 午後6時30分～8時	総合福祉センター 202・203会議室	最終確認、実施決定の判断について
反省会	5月14日（月） 午後6時30分 ～7時30分	総合福祉センター 201・202会議室	反省会

成果・反省点・課題

- \* 今回は強風の中での開催だったが、事故のリスクも考慮し、決行か中止かの決定、またテントやパネルの使用の有無について、的確な判断ができるかが課題。天候が不安定な春の開催を変更することも検討したい。

## 9 第16回菊野台ボランティアまつり

開催目的	菊野台地区で活動しているボランティアグループ、およびボランティア活動に関心がある人が一堂に会し、日頃の活動を紹介するとともに、相互交流をはかり、ボランティア活動に関する情報提供、および地域の人々への啓発を目的として行う。
日時	平成19年5月27日(日) 午前10時～午後3時
内容	ボランティアグループの紹介・体験コーナー(点字) 模擬店、ミニバザー、外国人による日本語スピーチ、中学生の合唱、住宅修理相談コーナー、包丁とぎ、鉢物の販売、情報交換、交流、啓発、各種相談コーナー
会場	菊野台地域福祉センター
参加者数	参加団体22団体 来場者約350人
運営	菊野台ボランティアまつり実行委員会

## 10 菊野台地域福祉センター 交流のかけはし への参加

事業内容	地域福祉センターを定期的に利用している団体が年に1回一堂に会して交流し、活動発表を行う場として、財団法人コミュニティ振興財団主催により開催。
開催日時	平成19年9月29日(土)・30日(日) 午前10時～午後3時30分
会場	菊野台地域福祉センター
参加内容	コーナーの紹介、交流、相談コーナー

## 11 平成19年度富士見ふれあいのつどい(小地域交流事業を兼ねる) 再掲

開催目的	地域にある福祉団体や施設、学校、ボランティア団体が参加し、実行委員として企画・運営にかかわり交流を図りながら、ともに地域福祉の向上を図ることを目的として年1回開催している。
日時	平成19年6月16日(土) 午前10時～午後3時
会場	富士見地域福祉センター
内容	舞台発表、模擬店、リサイクルバザー、自主製品展示・販売、各種相談コーナー、ゲームコーナー、工作コーナー、参加型イベント
参加者数	参加団体31団体、個人2人、来場者450人
運営	小地域交流事業「富士見ふれあいのつどい」実行委員会



1.2 「うたごえ喫茶 IN 富士見」(平成19年度小地域交流事業) 再掲

開催目的	老若男女問わず、懐かしい唄を皆と一緒に声を合わせて歌うことで、楽しみながら元気になれるふれあい交流の場づくりとして、毎月1回定期的に開催している。		
日時	平成19年 4月21日 55人 平成19年 5月19日 48人 平成19年 7月21日 48人 平成19年 8月18日 39人 平成19年 9月19日 45人 平成19年10月20日 50人	平成19年11月17日 44人 平成19年12月15日 69人 クリスマス交流会 平成20年 1月19日 53人 平成20年 2月16日 66人 平成20年 3月15日 67人 いずれも土曜日午後1時半～3時半	
会場	富士見地域福祉センター大集会室		
演奏	ピアノ伴奏 佐伯恵美氏	参加費	300円(飲み物つき)
参加者数	延べ584人(各回平均 53人) 市内全域から参加の高齢者が昔を懐かしむように歌っている。		
運営	小地域交流事業「うたごえ喫茶 IN 富士見」実行委員会		

1.3 「ボランティア交流会・ふれあいのつどい準備会」(小地域交流事業) 再掲

日時	平成20年3月 8日(土)午前10時～12時半
会場	富士見地域福祉センター大集会室
内容	富士見コーナーを拠点に活動している団体や施設との情報交換と交流
参加者	48人(スタッフ 6人)
予算	小地域交流事業費(門前そば打ちクラブの手打ちそば、手づくりケーキ)
運営	富士見コーナー推進委員

1.4 富士見コーナー推進委員会の開催

富士見コーナーの活性化を図るとともに、地域の活動を支援し、ボランティア活動の推進発展のため事業の企画、運営を担う目的で開催。

開催日時	出席者	内容
7月28日(土)	6人	ボランティア入門講座「はじめの一步」、脳トレふれあいマージャン等事業企画検討
10月30日(火)	5人	脳トレふれあいマージャン準備、運営
1月26日(土)	6人	ボランティア交流会企画、準備

### 15 富士見地域福祉センター 交流のかけはしへの参加

事業内容	地域福祉センターを定期的に利用している団体が、年に1回一堂に会して交流し、活動発表を行う場として、財団法人コミュニティ振興財団主催により開催
開催日時	平成19年11月11日(日)午前10時から午後3時30分
会場	富士見地域福祉センター
参加内容	コーナー紹介、相談コーナー、リサイクルバザー、模擬店

### 16 第11回ボランティアまつり染地

開催目的	地域で活動するボランティア・市民活動団体、当事者団体、施設、地域のミニデイ・サロン、学校などが交流し、地域のボランティアの輪を広げる
開催日時	平成19年5月20日(日)午前10時～午後3時
会場	染地地域福祉センター
内容	「みんなあつまれ、ともだちになろう」をテーマに、一人一人の意見を大切に話し合いを重ねた。 実行委員会4回開催 活動紹介、模擬店、作品展示販売、バザー、相談コーナー、他に子供コーナー
参加者数	参加団体35団体(新規参加6団体) 来場者500人

### 17 染地ボランティア連絡会

事業内容	個々で活動しているグループがお互いの活動を知り交流を深め、地域のネットワークづくりを目指して、H.18.9.5に発足 ボランティアまつり後、2ヶ月に1回開催
開催日時	第1回平成19年7月14日・第2回平成19年9月6日・第3回平成19年11月10日 第4回平成20年1月12日
会場	染地地域福祉センター

### 18 染地ボランティア連絡会主催のイベント

内容	開催日時
リハビリ麻雀	9月18日(火)より第2、第4火曜日 14回開催
マイパソコン教室	10月18日、11月15日・29日、12月13日 4回開催
お手玉つくりと遊び	8月7日、12月15日、平成20年2月2日、3月29日 全4回
ちょうふみんなの夢ツリー参加	12月15日～25日

19 緑ヶ丘・仙川ふれ愛のつどい(第7回緑ヶ丘ボランティアまつり) 再掲

開催目的	ボランティアまつりと小地域交流事業を同時開催することによって地域の福祉施設、学校、児童健全育成団体、自治会、老人クラブ等、建設労組、まちづくりの協議会など多種多様なボランティア・市民活動団体が出会い、交流を行いながら地域福祉の向上をはかることを目的に開催。子どもとの交流を願い、児童館まつりと同日開催で実施。
日時	平成19年10月14日(日) 午前10時～午後3時30分
会場	緑ヶ丘地域福祉センター
内容	活動紹介・発表、模擬店、手作り品販売、南京玉すだれ、ボランティア団体による手話ソング・合唱、和太鼓、フラダンス、朗読、アソビの演奏、高齢者会食、ふれあい給食、湯遊みどりの方々のコーラス・踊り、白百合女子大学生による人形劇、中・高生の和太鼓、キッズダンス、日本舞踊、老人クラブによる踊り等
参加者数	参加団体25団体、来場者206人

20 交流のかけはし・緑ヶ丘への参加

事業内容	地域福祉センターを定期的に利用している団体が年に1回一堂に会して交流し、活動発表を行う場として、交流のかけはし緑ヶ丘実行委員会主催、財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団協力により開催。
開催日時	平成19年11月10日(土)、11日(日) 午前10時～午後4時
会場	緑ヶ丘地域福祉センター
参加内容	コーナーの紹介、交流、相談コーナー

## 第3 ボランティア・NPO・市民活動団体、個人の活動支援

## 1 スペース・設備の貸出し

市民活動団体の会議、作業、打ち合わせなどさまざまな目的に応じてスペースを貸出し、その運営管理を行った。

## 市民活動支援センター（国領）来館者およびはばたき利用状況

## 来館者数推移

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
来館者数	2,059人	2,313人	2,813人	2,963人	2,141人	2,620人
一日平均	71人	77.1人	97人	98.8人	71.4人	90.3人
前年度同月比	102%	107%	112%	92%	103%	107%
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
来館者数	2,742人	2,506人	2,166人	2,366人	2,715人	2,670人
一日平均	91.4人	86.4人	80.2人	87.6人	97人	89人
前年度同月比	129%	108%	119%	127%	120%	108%

## 活動スペースはばたき・OAコーナー利用者数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
月間利用者数	1,749人	2,061人	2,388人	2,375人	1,843人	1,988人
一日平均	60.3人	68.7人	82.3人	79.2人	61.4人	68.6人
前年度同月比	112%	124%	116%	98%	106%	100%
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
月間利用者数	2,211人	2,099人	1,713人	2,188人	2,369人	2,481人
一日平均	73.7人	72.4人	63.4人	81人	84.6人	82.7人
前年度同月比	121%	120%	112%	148%	119%	119%

## 年間来館者・利用者数総計と利用内訳

## 【総数】

	18年度	19年度	増減率
来館者数	27,275人	30,074人	110%
利用者数	22,096人	25,465人	115%
相談件数	164件	391件	238%

相談件数の増について。

相談件数のカウント方式変更によるもの。前年度と比べると、相談として捉える内容について整理（簡易なものはずす）した。しかし、必要なデータが落ちている面もあり、課題発見や事業の企画立案に際して、有効なデータを正確に蓄積していく方法を今後検討していく。

【利用内訳】

	18年度	19年度	増減率
活動	1,755件	2,024件	115%
会議、打ち合わせ	757件	1,027件	136%
パソコン利用	3,823件	3,879件	101%
学習	1,429件	1,552件	109%
その他	384件	547件	142%
展示	14件	7件	50%

ランチ活用状況

拠 点	スペースの活用状況		来所者数	
	件 数	一日平均	人数	一日平均
小島町コーナー	728件	2.2件	5,516人	16.4人
菊野台コーナー	795件	6.2件	2,859人	20人
富士見コーナー	286件	2件	2,656人	18人
染地コーナー	474件	3.5件	5,010人	36.6人
緑ヶ丘コーナー	185件	1.4件	1,712人	12.6人
合 計	2,468件	3.1件	17,753人	20.7人

メールボックス、ロッカーの貸し出し（国領）

活動室内に設置されているロッカーおよびメールボックスを希望する市民活動団体に貸出し、その運営管理を行った。

内 容	19年度	18年度
メールボックス利用件数	43件	40件
ロッカー利用件数	70件	64件

## 2 ボランティア保険・行事保険の加入受け付け

ボランティア保険への加入促進の呼びかけと加入手続きの事務を取り扱った。

ボランティア保険加入者数（通年保険・受付随時）		2,916 人	
行事保険加入件数	A型（日帰り行事）	1,115 件	26,807人
	B型（宿泊行事）	27 件	608人

## 3 無線 LAN スポット運営（小島町）

16年度よりセンターの利用価値向上、情報分野からの市民活動支援を目的として無線 LAN のポイントを調布市総合福祉センター2階フロアに設置。これにより活動室、会議室、交流スペースなど2階一帯において、各自持ち込みのパソコンでインターネット接続が可能になっている。

サービス人：Free Spot（フリースポット協議会提供・バッファロー株式会社）

方式：IEEE802.11b

利用方法：窓口で利用規約および利用登録申請書入手。（あるいはホームページよりダウンロード）規約に同意し、申請書に必要事項を記入して提出。

ESSID(SSID)と暗号化キー(WEP)を受け取り、利用マニュアルを参照して各自持ち込みのパソコンに設定して利用する。

成果・反省点・課題

- \* 利用登録者数67人。個人利用のほか、会議室等利用者で視覚障害者を対象としたパソコン講習会や、障害者・高齢者対象のパソコン学習会の実施に際して利用されていることが多い。
- \* フリースポットを設置しているという情報が広まった上、調布駅前に位置する利便性から市民活動とは無関係の人たちの利用が目立つ。最近では、学生などがインターネット回線を利用するゲームなどをするために登録することが多くなっている。

## 4 無線 LAN スポットの設置・運営（国領）

センターの利用価値向上、情報分野からの市民活動支援を目的として無線 LAN のポイントを市民活動支援センター活動スペースはばたきに設置。これによりセンター内 OA コーナーだけでなく、各自持ち込みのパソコンでインターネット接続が可能となっている。

サービス人：Free Spot（フリースポット協議会提供・バッファロー株式会社）

方式：IEEE802.11b

利用方法：窓口で申請書に必要事項を記入して提出。ESSID(SSID)と暗号化キー(WEP)を受け取り、貸し出し用パソコンまたは各自持ち込みのパソコンに設定して利用する。

成果・反省点・課題

- \* フリースポットの運用自体は、トラブルもなくスムーズにおこなわれている。課題となっていたが、市から貸与されたノートパソコン（貸し出し用）が、経年劣化により、使用に耐えない状態となってきた。

## 5 電話対応代行サービス（国領 有料サービス）

平成17年度より、市民活動団体の支援サービスとして、活動やイベント・講座等に関する問い合わせ、受け付けの電話対応代行サービスを実施している。

利用料金	1,000円/月（サポーター会員は800円/月）
利用団体数	平均月4～5団体（通年利用3団体、そのほかスポットで6団体）
サービス内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 団体の活動に関する問合せ応答代行</li> <li>・ 行事、講座などへの内容照会および参加申込受付代行</li> </ul>

成果・反省点・課題

- \* 前年度に比べ利用団体は倍増し、1ヶ月3団体から最大で7団体の利用があり、市民団体・ボランティア団体などにとっては利便性のあるサービスとなっている。大規模で長期的なイベントについては、幅広い問い合わせ内容に対して迅速な対応が困難な状況もあり、今後の代行サービスを行う際の検討課題となった。

## 6 市民団体向け IT 講座

ボランティア・市民活動団体に所属する市民を対象とし、インターネットの基本操作を通じての安全・効率的な情報の受発信と市民活動支援センターのホームページの登録団体増加・活用度の向上  
ワープロソフト・表計算ソフトの基本的操作を通じての市民活動団体のIT技術活用機会増大として、市民活動支援センターの利用者増加を目的として、市内のボランティアネットワーク「やあやあネット」主催の市民団体向けIT講座に調布市とともに共催した。

期	開催日	参加者数	スタッフ
第1期（全5回） 18：30-20：30	平成19年 8/02、09、16、23、30	6人	5人
	会場：活動スペースはばたき		
第2期（全5回） 18：30-20：30	平成19年 10/4、11、18、25、11/01	4人	3人
	会場：電気通信大学80周年記念会館リサージュ		

第3期(全5回)	平成19年11/21、29、12/06、13、20	8人	5人
18:30-20:30	会場:活動スペースはばたき		
第4期(全5回)	平成20年 1/17、24、31、2/07、14	4人	3人
18:30-20:30	会場:電気通信大学80周年記念会館リサーチ		

成果・反省点・課題

- \* 活動の紹介や新規メンバーへ勧誘のために市民活動支援センターのホームページを活用することができるということを認識してもらうと同時に、講座に参加した団体同士での交流が生まれた。
- \* 昨年度の要望に基づき、ホームページの活用方法だけでなく、ワープロソフトや表計算ソフトなど事務に役立つIT講座も行った。
- \* 市から貸し出されたパソコンの老朽化によりインターネットの講座時には会場を電気通信大学TLOであるキャンパスクリエイトの協力で80周年記念会館リサーチにて開催した。地域の大学である電気通信大学との連携を図れたことは今後につながる1歩として考えたい。

7 NPO法人設立・運営に関する講座

社会課題の解決に取り組むべく、組織的に活動するNPO団体の活動を支援し、あたらしい活動、あたらしい団体の誕生を支援することを目的としてNPO会計講座、NPO法人設立、運営に関する講座を開催する。18年度は助成金申請のポイントをテーマとしてとりあげた。

(1) NPOマネジメント講座・広報

「NPOだからできる ヒトが集まる広報講座」

日時	3月8日(土) 午後1時30分~4時30分	費用	2,000円
会場	市民プラザあくろす会議室1	参加人数	8人
講師	NPO法人市民活動情報センター・ハンズオン埼玉副代表理事 吉田理映子氏		
内容	講義「NPOだからできる広報とは」 ワーク「手に取られるチラシの作成」		

成果・反省点・課題

- \* アンケート結果では満足度が高く、内容は非常によかったが、参加者が少なかったのが反省点。なぜこのような結果だったのか、開催時期や団体のニーズの把握など、講座の企画及び広報について見直しが必要。



## (2) NPO法人設立・入門講座

日時	8月30日(木)午後7時～9時	費用	500円(資料代)
会場	市民プラザあくろす会議室1	参加人数	19人
講師	市民活動支援センタースタッフ NPO法人市民活動推進協会専務理事 横山泰治氏		
内容	NPOについての説明、NPO法の解説、法人化の意義、必要な実務、NPO法人として活動している団体の体験談		

## 成果・反省点・課題

- \* 「NPOとは何かを知りたい」という方の参加が多かった一方、「法人化するための具体的な方法を知りたい」という方もいて、参加者一人ひとりのニーズに合った内容にすることができなかった。また、入門講座を1回しか開催できなかったのも反省点。
- \* 20年度はこれまでよりも少人数の定員とし、参加者一人ひとりのニーズや疑問に対応できる講座内容するとともに、定期的な開催を目指したい。
- \* 19年度実施できなかった会計・労務などの実務講座を、20年度に実施する。

## (3) えんがわマネー講座「助成金申請」

日時	12月8日(土)午前10時～12時30分	費用	2000円/人
会場	市民プラザあくろす あくろすホール	参加人数	4人
講師	熊谷 紀良氏(東京ボランティア・市民活動センター主任)		
内容	挨拶、講義 テーマ「ユメをカタチにするために - 助成金申請の基礎 - 」(講師：熊谷紀良氏 東京ボランティア・市民活動センター) 質疑応答		

## 成果・反省点・課題

- \* 今回、参加動機が「助成金の申請経験があり、申請のコツを知りたい」「助成金の仕組みについて勉強してみたい」の2点に分かれた。講師の選定に関しても助成金申請を支援する中間支援機関の職員の相談事例を交えたアドバイスを行っていただくと共に、参加者の疑問にその場で回答する対話形式で行われたため、参加者からは、「細かなテクニックまで聞くことができた」や「ボランティアとして関わっている団体が資金不足に直面し、『助成金』について初めてきちんと勉強できた」、「独学でおこなっていた助成金を体系的に学ぶことができた」といった高い評価を得ることができた。しかしながら、応募者が10人前後居たにもかかわらず、直前のキャンセルや無断で欠席された方もいたため、今後は、開催時期の設定やテーマ設定の他、申し込み後のフォローなど参加者に来ていただける工夫を検討していきたい。

## 8 使用済み切手、カード類の回収

「使用済み切手、カード類」の回収のため、市役所、地域福祉センター、郵便局等に回収箱を設置。企業、老人クラブ、幼稚園、小学校、市民からの寄付・回収された切手・カード類は、ボランティア団体の協力により整理され、年2回換金した。

種 類	売上げ金額	換金日	備 考
カード類	21,500 円	平成 19 年 9 月 12 日	テレフォンカード 1kg あたり 500 円 その他のカード 1kg あたり 250 円
切手類	116,871 円	平成 20 年 2 月 15 日	日本記念切手（台紙あり）小 1kg あたり 500 円 大 1kg あたり 1,000 円 外国切手（台紙あり）小 1kg あたり 500 円 大 1kg あたり 1,000 円 束ね切手 25 束あたり 500 円
合計金額	138,371 円		

## 9 NPO・市民活動団体への情報ペーパー「エンガワンK」配布

NPO・市民活動団体が日々の運営や活動において、共通の質問や課題としている内容を、A5サイズの紙にまとめた「エンガワンK」を昨年度に続き配布した。栄養ドリンクのように見えるパッケージの裏側に、「会議」、「イベント」、「広報」につづき、「事務作業」と「インターネットの活用」をテーマに、作成を行った。また、昨年度作成成分についても継続して補充を行うと同時に情報の更新を行いながら配布を行った

テーマ	内容	総合編	地域情報編	グッズ編
会議で悩んで いませんか？ (昨年度から継続)		活発な会議とは？ 【内容】 進行についてのアイデア等 【配布数】約120部	会議しやすい施設とは？ 【内容】 市内の会議可能施設紹介 【配布数】約100部	会議上手のグッズとは？ 【内容】 会議事に使えるグッズ紹介 【配布数】約100部
イベント成功 していますか？ (昨年度から継続)		成功するイベントとは？ 【内容】 イベント企画時の注意点等 【配布数】約120部	市内のイベント施設 は？ 【内容】 市内の屋外施設紹介等 【配布数】約100部	イベントお役立ちグッズと は？ 【内容】 用意しておく便利なグッズ 【配布数】約100部
広報は上手に されていますか？ (昨年度から継続)		伝わる広報とは？ 【内容】 広報のアイデア等 【配布数】約120部	市内で広報するには？ 【内容】 広報のアイデア等 【配布数】約120部	広報役立ちグッズと は？ 【内容】 グッズ編～作成中～
事務は効率的ですか？		効率的な事務とは？ 【内容】 事務作業のヒント等 【配布数】約120部	効率的な事務とは？ 【内容】 市内情報編～作成中～	効率的な事務とは？ 【内容】 グッズ編～作成中～
インターネットは 活用していますか？ (昨年度から継続)		活用するには？ 【内容】 情報検索編～作成中～	活用するには？ 【内容】 団体情報発信編 ～作成中～	活用するには？ 【内容】 イベント情報発信編 ～作成中～

### 成果・反省点・課題

- \* A5一枚で読み易くまとめていることから、市民活動支援センターの利用者の多くに呼んでもらうことができた。
- \* テーマによっては続編が必要なものもあることから、今年度のテーマを大テーマとし、さらに個別のテーマにも今後情報提供を広げていきたい。

## 10 市民活動団体助成事業「えんがわファンド」の実施

18年度より新規事業として立ち上げた。幅広い分野の市民活動を支援すること、また本助成事業を通して、団体同士、あるいはセンターと団体が相互に交流し、協力しあう関係を構築することを目的に実施した。

## (1) 選考

## 選考委員会の開催状況

開催日	6月22日(金)午後2時～4時
会場	市民プラザあくるす会議室1
内容	各団体から提出された申請書により、助成団体を選考 応募団体21団体の中から、12団体に助成決定

## 選考委員 (敬称略・50音順)

金子 日出澄	市民活動支援センター長
熊谷 紀良	市民活動支援センター運営委員、東京ボランティア・市民活動センター
阪井 伸子	市民活動支援センター副運営委員長
山口 昌之	市民活動支援センター運営委員長
和田 敏明	市民活動支援センター運営委員、ルーテル学院大学教授

(2) 助成団体 計12団体(申請順) 助成総額 575,736円

	団体名	助成額	助成内容
1	調布わいわいサロン	20,000円	団塊の世代を中心とした地域デビュー支援の促進
2	メタボリック・ぱぴーず	80,000円	福祉団体主催のイベントでのバンド演奏、合同演奏会の企画・参加
3	調布水辺の楽校設立準備会	48,000円	多摩川での環境学習及び自然体験活動
4	深大寺人と緑と犬の会	50,000円	セラピー犬活動(福祉施設訪問)を行う犬・飼い主ペアの育成
5	グループあい	33,000円	「音声版 月刊武蔵野くろすとーく」の制作、配布
6	ちびっ子プレイパークの会	37,460円	イベント「親子で遊ぼう!ちびっ子プレイパーク」の実施
7	ぼけっと(障害者・青年の集い)	39,711円	作業所等に通う障害者の余暇活動
8	発達心理研究所 ADHDの会	70,000円	軽度発達障害者向けホームページの作成
9	ボランティア ドングリの森	31,565円	森づくりの前段階としてのポット苗づくり
10	飛田給福祉のまちあるき 実行委員会	56,000円	飛田給地域のまちづくり
11	NPO法人 ちょうふどっとこむ	50,000円	市民団体及び市内商店向け IT 講座の実施
12	NPO法人 エクセルシア	60,000円	移送サービス事業における車両の後方視界確保のためのカメラ取り付け
合計		575,736円	

助成額は42,500円だったが、事業終了に伴う清算により、2,789円の返金となった。

成果・反省点・課題

- \* 一団体上限10万円、総額60万円という、他助成金と比較して小規模な助成金だったが、地域に根ざした活動を行っている多くの団体から応募があった。
- \* 市民活動支援センター運営委員やスタッフが直接団体の活動を見に行き、話を伺ったことで、助成団体とセンターとの「顔の見える関係」をつくるとともに、団体の課題や要望などもヒアリングすることができた。そういった団体の声を、今後のセンター事業に活かしていきたい。
- \* 市民や企業からの寄付を原資に助成を行う「市民ファンド」の仕組みをつくることができた。
- \* 今後は資金の確保や、ファンドの運用方法が課題

(3) 交流会 平成20年度に実施予定

日	時	平成20年5月10日(土)午後1時30分~4時
会	場	市民活動支援センター「はばたき」
内	容	助成団体による報告、選考委員による講評、交流会

## 第4 ボランティア・NPO・市民活動団体、企業や行政との協働

### 1 専門家による高齢者・障害者世帯の無料家具転倒防止工事の受付

災害時の家具転倒対策が自力では難しい高齢者・障害者世帯を対象に、建築職人の組合「東京土建」が無料で実施する、家具転倒防止工事の広報と受付を行った。

実施日時	12月2日(日)午前10時～12時
対象者	市内在住の高齢者(65歳以上)・障害者のみの世帯
内容	一室分の家具の転倒防止金具の取り付け作業
工事件数	9件
料金	一部屋に限り無料
主催	東京土建一般労働組合調布支部

#### 成果・反省点・課題

- \* 阪神・淡路大震災では、犠牲者の80%以上が家具による圧死との事例があり、家具転倒防止工事は有効な防災手段となっている。しかし、高齢者や障害者のみの世帯では対策をとることが難しいため、そうした方々を対象に、工事を無料でやっていることは非常に有意義なことだと思われる。
- \* 18年度に引き続き、19年度も定員(20件)を下回る申込みであった。当事業の有効性を、高齢者や障害者のみの世帯にどのように周知していくかが課題。

### 2 調布市総合防災訓練への参加

いざというときの対応に備えるシミュレーションとして、調布市が実施する調布市総合防災訓練に参加、災害時のボランティア受付やニーズ調査等を想定した訓練を行った。

実施日時	8月26日(日)午前8時30分～11時30分
会場	多摩川河川敷
参加内容	災害ボランティアの受入れ及びコーディネート訓練、避難住民要望調査、救援物資配布訓練
受付ボランティア数	15人
避難住民要望調査人数	97人(調査結果を調布市総務部総合防災安全課へ報告)
救援物資配布件数	700個
協力	調布災害時ボランティア・コーディネーターの会

成果・反省点・課題

- \* 大規模災害時に社会福祉協議会が中心となって災害ボランティアセンターを設置することを想定して参加したが、実際の災害時に対応した訓練とまではいかなかった。
- \* 大規模災害があった場合、スタッフがどのような動きをするかの意識共有が必要。災害ボランティアセンター設置の検討とともに、スタッフの研修も行っていきたい。
- \* 様々な関係機関が参加していたが、各機関とも個別の動きのみで、連携につながる事がなかった。今後の課題として、大規模災害に対応できるように、平常時から他機関と「顔の見える関係」づくりを進める必要がある。

### 3 市民のための災害講座「体験してみませんか？避難所生活！」の実施

市民に災害への意識をもってもらうことを目的に、調布災害時ボランティア・コーディネーターの会と共催で避難所体験講座を実施した。

(1) 第1回

実施日時	7月1日(日)午前9時45分～午後1時30分
会場	調布市立国領小学校
内容	防災備蓄倉庫の見学、濾水器・簡易トイレ・発電機・非常食試食・災害伝言板体験、段ボール間仕切り・照明(ほのぼのあかり)作成、防災用品の展示
参加者数	36人
主催	調布災害時ボランティア・コーディネーターの会
協力	調布市、調布市立国領小学校、(株)船山

(2) 第2回

実施日時	11月25日(日)午前9時10分～午後0時20分
会場	調布市立第二小学校
内容	防災備蓄倉庫の見学、濾水器・簡易トイレ・発電機体験、段ボール間仕切り・照明(ほのぼのあかり)作成、グループ討議、防災用品の展示
参加者数	36人
主催	調布災害時ボランティア・コーディネーターの会
協力	調布市、調布市立第二小学校、(株)船山

成果・反省点・課題

- \* 調布災害時ボランティア・コーディネーターの会(調布SVC)との共催で実施。参加者からの反応は非常に好評であった。
- \* 7月には災害伝言ダイヤル、2月にはグループ討議といった新しい内容を取り入れ、講座の充実を図った。
- \* 大規模災害時には「自助」「共助」が重要になるので、市民に災害について考えてもらうきっかけとなる本講座の開催を、今後も市内各地で続けていきたい。



## 4 やあやあドリームオールスターズ「こどもあそび博覧会4」実施協力

学校と地域の連携を深め、「地域で子どもを育もう」という視点で、市民活動団体が中心となって実行委員会を立ち上げ開催したイベントに共催した。

市民活動団体や個人が、体験型・参加型のさまざまなブースを設け、親子や友達同士また地域の人たちとふれあいながらいろいろな気づきを得られることを目的として実施。

日 時	平成 19 年 10 月 20 日（土）午前 10 時～午後 3 時
会 場	調布市立柏野小学校
来 場 者 数	子ども 900 人、大人（保護者、教員等）600 人 合計 1,500 人
参加団体数	37 団体
主 催	やあやあドリームオールスターズ 2007 実行委員会
共 催	やあやあネットワーク、社会福祉法人調布市社会福祉協議会、社団法人調布青年会議所
協 力	調布市立柏野小学校、同 PTA・健全育成推進委員会・学校開放委員会、柏野フレンド・パーク実行委員会 2007、長野県木島平村
協 賛	調布市、調布市観光協会、東京電力株式会社武蔵野支社、キューピー株式会社仙川工場、FC 東京
後 援	調布市教育委員会
本事業は、「PIVOT 基金（東京都遊戯業ボランティア基金）」の助成を受けて開催いたしました。	

## 参加団体一覧

参加内容	団 体 人
柏野フレンド・パーク 2007	柏野小学校
レッツ折り紙	折り紙博士
おもちゃの病院	電気通信大学 おもちゃの病院
点字体験コーナー	菊野台点字サークル
木島平村の自然素材を活かした体験	長野県木島平村
人物「おやき」販売	木島平村 新鮮屋
手話体験	手話サークル くすの木
ドングリのポット苗づくり	ボランティア ドングリの森
レモン電池の実験	東京電力株式会社 武蔵野支社 地域コミュニケーショングループ
つくろう！ほのぼのあかり 食べよう！アルファ米	調布災害時ボランティアコーディネーターの会 （調布 SVC）
ニュースポーツ（室内版雪合戦）	調布市体育指導委員会

第3部 市民活動支援センター

ソフトサッカーボールで リフティングほか	F C 東京
わらなわであそぼう	特定非営利活動法人市民活動推進協会 野遊びくらぶ
ブリクラシールでマークづくり	特定非営利活動法人 do be くらぶ
使用済みわりばしの回収	わりばしリサイクルグループ くるりん
スルーネットピンポン	さるすべり
コンニャク作り	特定非営利活動法人全国教育ボランティアの会
スーパー紙とんぼを作って飛ばそう	スーパー紙とんぼの会
なんか作るー( ぶんぶんごまづくり、 スライム作り)	調布少年少女センター
アラビア語を書いてみよう!	調布サウディアラビア友好会
ペットボトルでペンたてをつくろう	あむあむサークル
『こども大工さんコーナー』	首都圏建設産業ユニオン調布支部
化石発掘シミュレーション (実際の小さい貝の化石を発掘クリー ニング)	テラキラキラその2
極真会館 増田道場	増田道場カラテ体験コーナー
英語であそぼう	ホザナ英語クラブ
ヒッポファミリークラブ、 世界のことばで遊ぼう	言語交流研究所ヒッポファミリークラブ調布支部
M C 体験	調布市民放送局
茶道体験、だんでと遊ぼう、だんでと作 ろう	ボランティアグループ だんでらいおん
きみは日本人?地球人? - 知ってるか い?世界の子どものたちのこと -	調布女性ヒューマニズム会議
救急救命コーナー	調布消防署
会場装飾	調布美術研究所
お手玉でIT?	特定非営利活動法人 調布市地域情報化コンソーシアム(C L I C)
K I D S F L O W E R	特定非営利活動法人日本切花装飾普及協会
すまいるパン販売	フレッシュパーカーすまいる 社会福祉法人調布市社会福祉事業団
ピザ屋さん	M U N E P I Z Z A
和太鼓演奏	和太鼓衆 雅武者
準備・運営ボランティア	特定非営利活動法人調布青少年事業団(C A P S)
校内外放送、セレモニー司会	調布FM株式会社

(順不同)

実行委員会開催状況

会場：市民活動支援センター

回数	実施日	内 容
第1回	6月20日(水)	1.開催概要〔予算(案)含む〕及び、2.実行委員会組織並びに役員の選出、 3.今後のスケジュールの確認
第2回	7月24日(水)	1.事前折衝経過説明(PIVOT助成金、柏野小学校の進捗状況、近隣小中学校の参加)、2.参加団体の確認、3.広報について(チラシ・ラフ案、その他の周知方法の確認)、4.予算(案)について5.その他(YDAS内での情報共有、実行委員長よりメッセージ、今後の検討事項)6.今後のスケジュールの確認
第3回	8月28日(火)	1.事前折衝経過説明(柏野小学校の進捗状況)2.参加団体の確認、3.会場配置(案)について(各ブースのイメージ共有、「前日・当日に関する調査票」)4.チラシの選定について、5.今後のスケジュールの確認
第4回	9月19日(水)	1.事前折衝経過説明(柏野小学校の進捗状況、晃華学園中高生のボランティア参加、「すまいる」の参加)、2.会場レイアウト(案)について、3.前日・当日の運営について(前日・当日のタイムテーブル、セレモニー実施案含む)、4.広報について、5.その他(スタンプラリー、景品、各ブース用のポップ)、6.今後のスケジュールの確認
第5回	10月17日(水)	1.事前折衝経過説明(保険、ゴミの取扱い)、2.会場レイアウトについて、3.役割分担について、4.前日・当日の流れについての確認(準備および撤収、駐車場の利用)、5.その他、6.スタンプラリーについて(ルール説明、作業)、7.今後のスケジュールの確認
作業	10月18日(木)	当日配布パンフレット印刷・帳合作業
第6回	11月6日(火)	反省会

会場は 市民プラザあくるす3階印刷室ほか

(3) 事務局会議の開催状況

会場：市民活動支援センター

回数	実施日	内 容
第1回	6月15日(金)	1.実行委員会について、2.開催会場の交渉経過について、3.予算(案)について、4.実行計画案について、5.今後のスケジュールの確認

第3部 市民活動支援センター

第2回	7月15日(金)	1.事前折衝経過説明および参加団体の確認(PIVOT助成金、柏野小学校の進捗状況、近隣小中学校の参加)、2.第2回実行委員会について、3.広報について(チラシ・ラフ案、その他の周知方法の確認)、4.予算(案)について5.その他(YDAS内での情報共有、今後の検討事項)6.今後のスケジュールの確認
第3回	7月31日(火)	1.事前折衝経過説明および参加団体の整理(実行委員長より紹介の参加団体・個人、柏野小近隣の小中学校のボランティア参加、出演依頼、PTAの役割分担、その他)、2.広報について(チラシのラフ案)4.予算(案)について、5.その他(昼食、柏野小校長・副校長への挨拶、柏野小夏まつり)、6.今後のスケジュール(案)
第4回	9月15日(水)	1.事前折衝経過説明(柏野小学校の進捗状況、晃華学園中高生のボランティア参加、「すまいる」の参加)、2.会場レイアウト(案)について、3.前日・当日の運営について(前日・当日のタイムテーブル、セレモニー実施案含む)、4.広報について、5.その他(スタンプラリー、景品、各ブース用のポップ)、6.今後のスケジュールの確認
第5回	10月9日(水)	1.事前折衝経過説明(柏野小との折衝、すまいるの参加、新鮮屋の販売数、晃華学園のボランティア参加調整)、2.会場レイアウト(案)について、3.前日・当日の流れについて(「雨用プログラム」の判断基準、タイムテーブル)4.役割分担の確認(人員配置案、各ブース実行委員代表者用「担当者連絡先」の作成)5.スタンプラリーについて(景品の個数、景品の受渡し方法、スタンプラリーカード)6.その他(サイン、スリッパの使用、備品の借用・購入の検討、ゲート制作、案内看板の設置、駐車許可証の発行、駐車場、保険の手配、スタッフ用昼食、近隣住民へのご挨拶)7.今後のスケジュール(案)
第6回	11月6日(金)	反省会

成果・反省点・課題

\* 今回もまた、最多の来場者数を更新した。この「やあやあドリームオールスターズこども遊び博覧会(通称:YDAS)」は、一大イベントとなりつつあることを実感している。参加した子ども達からは、「次は自分の通う小学校に来てね」という声も聞かれ、子ども達にとって、ここでの経験・体験の大きさを改めて感じる事ができた。しかし、毎回、資金を助成金に頼っていることや、参加する実行委員側にマンネリ化が見られ、モチベーションを維持するための工夫や円滑にマネジメントを行うための工夫が求められる。それに加えて、開催校および近隣住民との事前折衝、協力依頼の方法も検討していくべきではないだろうかと感じている。

「活性化を図ること」、これこそが今、最も求められるものではないだろうか。

## 5 調布ボランティア連絡会の開催

調布ボランティアまつり参加団体を中心に、団体間の情報交換や交流を目的に隔月に実施した。

(1) 開催状況 定例会4回 会場はいずれも調布市総合福祉センター会議室

開催期日	内 容
5月14日(月)	ボランティアまつり反省会 ボランティア連絡会の今後の予定について 次回テーマについて
6月11日(月)	新規加入団体の活動紹介 深大寺 人と緑と犬の会 京王断酒会 テーマ「防災」について
8月21日(月)	新規加入団体の活動紹介 やあやあネットワーク 避難所体験(7月1日開催)の報告 被災地でのボランティア体験談 テーマ「防災」について各団体何ができるか
10月15日(月)	新規加入団体の活動紹介 調布地域猫の会 救急防災フェア-2007に参加しての報告 第28回調布ボランティアのまつり(平成19年度)について 第28回調布ボランティアのまつり第1回実行委員会開催 以降、調布ボランティアまつり実行委員会に移行

## 6 菊野台ボランティア連絡会の開催

菊野台コーナーを拠点に活動しているボランティアの交流や情報交換を目的に約2ヶ月に1回開催した。コーナーの事業への協力、連携が深まった。また、連絡会の団体・メンバーの募集のためのチラシ作りや、活動紹介など、積極的な地域への働きかけも行っている。

成果・反省点・課題

- \* ボランティア祭りの中核となり、自主的な意識を持ち、積極的に活動している。

## 7 緑ヶ丘ボランティア連絡会の開催

緑ヶ丘コーナーを拠点として活動しているボランティア団体の交流・支えあいを目的に開催し、地域のためになる活動を考え、実施することに協力した。

開催回数 4回 参加人数 延べ30人

成果・反省点・課題

- \* ボランティア団体の横のつながりができた。お祭りを利用して資金調達の工夫もできた。その際に会員同士の友好にも成果があった。今後はそれぞれの団体の活動はもとより、地域の役に立つ何かを考えましょう！という提案があり、次年度からは具体的な事を決めていくことが大切である。

## 8 北多摩南部ブロック（調布・府中・三鷹・小金井・狛江）ボランティア・市民活動センターとの連携

他地区センターと事業共催することにより連携強化を図ると同時に、業務や経費を分担することで効率的に多彩な事業を展開することを目的として平成12年度から実施。これまで、環境（平成14年度、15年度）や国際交流（平成12年度、13年度、16年度）、NPOマネジメント講座（平成17年度）、奉仕体験（平成18年度）をテーマに実施した。

19年度は協議の結果、共催事業は実施しなかった。

### （1）北多摩南部ブロックボランティア担当者連絡会開催状況

回数	日時	会場	参加者	内容
第1回	9月11日（火） 午後3時30分～5時	あいとぴあセンター （狛江市）	6人	共催事業の検討、情報交換
第2回	10月18日（木） 午後3時～5時	市民活動支援センター （調布市）	7人	共催事業の検討
第3回	11月20日（火） 午後3時～5時	みたかボランティア センター	7人	共催事業の検討 協議の結果、実施しない

成果・反省点・課題

- \* 19年度は共催事業を実施せず、意見交換で終わった。個々のセンターからは課題・テーマが出されたが、各センター共通の課題・テーマが見い出せなかった。
- \* 5市のセンターが集うメリットを活かし、情報交換や共催事業につなげていきたい。

## 9 困難な課題を抱える女性のためのIT講座の運営協力

DV被害や幼児期の虐待体験、外国籍や母子家庭など、さまざまな困難な課題を抱えている女性を対象にパソコンの基礎技術を指導し、社会参加と自立への支援を行う、企業人ボランティアグループの活動支援を行った。

(主催：ITボランティアネットワーク)

開催日時	第一期	5月20日, 6月3日, 6月17日, 7月1日, 7月15日, 8月5日 (全6回) 午前10時~12時 午後1時~3時
	第二期	9月3日, 9月30日, 10月14日, 10月28日, 11月11日, 11月25日, 12月5日, (全7回) 午前10~12時 午後1~3時
	第三期	1月20日, 1月27日, 2月3日, 2月24日, 3月2日, 3月9日, (全6回) 午前10~12時 午後1~3時
内容	ワードコース	ワードの基礎を中心に応用とインターネットの習得
	エクセルコース	エクセルの基礎を中心に応用とインターネットの習得
参加者数	講座参加者延べ50人(各コース10人定員) 指導・環境ボランティア10人 保育ボランティア10人	

### 成果・反省点・課題

- \* 期間終了後、参加者へのアンケートを実施し、教室はとてもよかったとの回答を多数いただいた。継続して習得する女性も多く、就労意欲や自立へ向けての支援が行われていた。特に保育が整っており、参加者は授業に集中できる環境を提供することができた。
- \* この講座を必要としている女性に情報が届くようハローワーク・市内各施設と連携を強化し、女性たちが社会の中で自信を持って自立できるよう支援していきたい。

## 10 あくろす協働事業 「the 団塊」の実施

市民プラザあくろす内3センター(男女共同参画推進センター、産業振興センター、市民活動支援センター)の連携事業として、19年度は「団塊世代」をテーマに、それぞれの特色を生かした取り組みを行った。

「NPOは社会をかえるか? ~企業にできない NPOでできること~」

昨今、さかんにいわれる「官民協働」、そしてその担い手として期待されるNPO。そもそも、なぜ協働なのか、そしてなぜNPOなのか。NPOの意義や役割を理解し、社会のしくみやあるべき社会のために市民ができることはなにか、を考える機会となった。

日時	11月25日(日)午後1時30分~5時30分	会場	市民プラザあくろす3F研修室
内容	講義とワークショップ	費用	無料
講師	枝見 太郎氏(富士福祉事業団理事長)	参加者数	12人

## 第5 ボランティア・NPO・市民活動コーディネート

## 1 相談対応、ボランティア・市民活動支援

相談対応、活動支援、活動紹介等コーディネート機能を強化し、市民の主体的な活動を支援した。

## ボランティア団体及びボランティア登録状況

拠 点	登録団体		個 人
	団体数	構成メンバー数	
小島町コーナー	110団体	4,785人	530人
菊野台コーナー	17団体	2,310人	14人
富士見コーナー	12団体	185人	68人
染地コーナー	22団体	255人	29人
緑ヶ丘コーナー	6団体	80人	30人
合 計	167団体	7,615人	671人

## 相談業務及びコーディネート事業

拠点	相談件数	ニーズ受付件数		対応件数	対応人数
		個 人	団 体		
小島町コーナー	1,659件	個人	1,310件	1,278件	1,278人
		団体	144件	134件	291人
菊野台コーナー	108件	個人	85件	79件	95人
		団体			
富士見コーナー	65件	個人	40件	32件	48人
		団体			
染地コーナー	92件	個人	37件	34件	114人
		団体			
緑ヶ丘コーナー	50件	個人	12件	10件	10人
		団体	6件	6件	12人
合 計	1,974件	1,634件		1,573件	1,848人

## 成果・反省点・課題

- \* 個人からの依頼では、保育、児童の送迎など継続的、日常的にサポートが必要なボランティアニーズが引き続き増加する傾向にある。
- \* 児童の送迎については、昨年度から行政機関等に働きかけ、ボランティア対応以外の対応がとれないか模索をしていたが、頓挫してしまった。
- \* 保育、児童の送迎に限らず、「ボランティアしたい」という希望者より、「ボランティアに協力してほしい」という依頼者が上回っているのが現状である。単純な「ボランティ



「ア募集!」という呼びかけではなく、「やってみたい」「手伝いたい」と思ってもらえるような呼びかけ方、人の心に訴える広報の検討をすすめている。

## 2 子育て支援・ひまわり (緑ヶ丘コーナー)

開催目的	健康な心を取り戻すため 辛い気持ちなどの分かち合い 児に関するアドバイス
開催日	通年 8月と12月を除く、毎月2回開催(火曜日) 4月17・24日 5月8・15日 6月5・19日 7月10・17日 9月11・18日 10月16・23日 11月6・20日 1月15・29日 2月5・19日 3月4・18日
内容	おしゃべりをしながら、惣菜やパンケーキ・クッキーなどを作り、楽しむ。 作ったものを試食しながら、話を聴きだし、問題点についてアドバイスをしたり育児相談に対応したりする。
会場	緑ヶ丘地域福祉センター
参加者	延べ43人
講師	子育てアドバイザー 船山 和子氏
支援	社会福祉法人 三社会 緑ヶ丘保育園

## 第6 人材育成，学習支援

## 1 出前ボランティア講座の実施

小・中高等学校ですすめられている「総合的な学習の時間」に対応した。

出前回数	41回	出前先	小学校	33回
受講生	延べ3,902人		中学校	3回
派遣スタッフ	延べ189人		高等学校	2回
			その他	3回
開催講座数	141講座・・・手話20講座・視覚障害者ガイド43講座・点字37講座・車いす41講座			

福祉まつりにて体験コーナーを実施した。

開催日	平成19年12月1日(土) 午前10時～午後3時		
会場	たづくり むらさきホール		
メニュー	車いす体験講座、点字体験講座、手話体験講座 作業所協力による組みひも、機織体験 視覚障害・聴覚障害者用福祉機器展示、障害者スポーツパネル展		
協力スタッフ	車椅子3人、手話(登録手話通訳者の会)14人 点字(菊野台点字サークル)6人、作業所(耕す会・希望の家)8人 日本福祉サービス 1人		
協力	(株)ワールドパイオニア 日本福祉サービス 清水一ニ(パラリンピック公認カメラマン)		
来場者数	車椅子体験 93人	手話体験 110人	
	点字体験 91人	作業所体験 98人	

## 2 調布サマーボランティア'07

青少年（概ね13歳～30歳）を対象に、夏休み期間を利用したボランティア活動体験を実施した。活動体験の受け入れ先は、市内および都内の福祉施設、社会教育施設や市民活動団体など。東京ボランティア・市民活動センターとの共催により、都内他地区ボランティア・市民活動センターとも連携し、幅広い地域から訪れる活動体験希望者と受け入れ先との調整を行った。

受け入れ団体・施設	71団体 ・ 85プログラム	内 訳		
		・高齢者関係	17団体 17プログラム	
		高齢者施設	9団体	
		老人クラブ	3団体	
		ボランティアグループ	2団体	
		社協・市関係団体	3団体	
		・障害者（児）施設	13団体 13プログラム	
		障害者施設	12団体	
		ボランティアグループ	1団体	
		・子ども関係	31団体 44プログラム	
		児童養護施設	0団体	
		障害児施設・団体（学童クラブ含）	4団体	
		児童館・学童クラブ	10団体	
保育園	17団体			
・海外協力	1団体 1プログラム			
・環境関係	2団体 2プログラム			
・その他 IT・文化など	7団体 7プログラム			
参加者人数および活動先別人数内訳	参加者総数	208人（男性 73人 女性 135人）		
	年齢層内訳 （カッコ内は 応募者数）	中学生	43人（44人）	
		高校生	160人	
		専門学校生	2人	
		大学生	3人（4人）	
社会人		0人（1人）		
活動先別内訳	高齢者関係	53人		
	障害者関係	14人		
	児童関係	119人		
	医療関係	なし		
	国際・環境関係	14人		
	その他	33人		

合同オリエンテーション	開催日時	平成19年 7月 14日(土) 13時30分～15時30分
	内 容	・活動を始めるにあたっての諸注意 ・活動先施設(団体)紹介 ・活動先別グループワーク ・活動先別オリエンテーション
	参加人数	・活動者 131人 ・活動先施設担当者 25人
交流会	開催日時	平成19年 8月25日(土) 13時30分～15時30分
	内 容	・アイスブレイキング「 」 ・サイコロトーク ・交流会
	参加人数	活動者 13人 活動先施設担当者 6人 教員 3人 社協実習生 2人

## 成果・反省点・課題

- \* 今年度は例年に比べて参加者が倍増し、人気の子ども関連、特に保育園・児童館に希望が集中した。参加者すべての要望に応えることはできなかったが、不安を抱きながらも参加した活動者が実際の体験後ではボランティア意識の変化や感動を覚えたという感想も多く、受け入れ施設の好意的な対応と協力を得ることができた。
- \* 授業や宿題の一環として一学年全体で参加という中学校もあり、自発的でない参加や活動を義務としている生徒などに対して、どのように「ボランティア活動」についてオリエンテーションしていくか課題となった。
- \* 来年度は都立高等学校の奉仕体験活動が開始され、当プログラムに多数の参加が見込まれるため、学校側と連携をとりながらスムーズな受け入れ態勢を整えとともに、受け入れ施設・団体等の拡大にも努めたい。

### 3 ボランティア入門講座「はじめの一步」

はじめてボランティア・市民活動に参加する方やボランティア・市民活動について知りたいという方を対象に、ボランティア入門講座「はじめの一步」を各ブランチで開催した。

拠 点	開催日	参加者数	スタッフ
菊野台コーナー	平成19年 6月26日(火)	0人	1人
	平成19年12月18日(火)	2人	1人
富士見コーナー	平成19年 9月29日(土)	3人	2人
	平成20年 2月26日(土)	3人	1人
染地コーナー	平成19年 7月21日(土)	5人	4人
	平成20年 1月27日(土)	6人	4人
緑ヶ丘コーナー	平成19年11月29日(木)	0人	2人
野ヶ谷の郷	平成19年 4月24日(火)	0人	1人
	平成19年10月27日(土)	0人	1人
	平成20年 3月25日(火)	5人	1人

#### 成果・反省点・課題

- \* 18年度に比べると、参加者の増加がみられる。市報掲載ができなかった場合には、まず参加者がいないことから、この講座へ関心を持つ層が、市報の読者層(年齢、関心テーマなど)と重なっているのかという見方もできる。
- \* 日程の設定、テーマといった講座内容や、広報手段など引き続き「参加したい」と思える魅力ある講座づくりを検討していきたい。

## 4 ボランティアマネジメントセミナー

「ここが知りたい！ボランティアが長く続くコツ」

ボランティアが受け入れている施設や団体のマネジメント力を高め、受け入れ側、ボランティア側双方にとって、意義のある活動プログラムを展開していけるよう、受け入れ担当とともにコーディネートスキルを考える機会とする。

日時	2008年 2月29日(金) 午後1時30分 ~ 午後4時30分
対象	ボランティア受け入れ担当者
参加者	30人
講師	東京ボランティア・市民活動センター 専門員 池澤良子 氏 (社福)調布を耕す会 職員 後藤朋子 氏 *事例報告
内容	・ボランティア受入れのポイント ・ボランティアが長く続く施設・団体になるために必要なことは ・今回のセミナーに参加して気づいたこと ・気づきを今日から、明日から実践するには

成果・反省点・課題

- \* 原点にもどって、ボランティアを受け入れる意味や必要性をあらためて考えるきっかけとなった。
- \* ボランティアと向き合うことの大切さを再確認した。
- \* 施設間のよき情報交換の場になった。

## 5 小・中学生ボランティア講座 (菊野台コーナー)

小学校4年生から高校生までもを対象に、ボランティア活動についての学習と体験の場として毎月1回行う。人とのふれあいや様々な体験をとおして、ボランティア活動や共に地域で支えあいながら暮らしていくことの意義について考えていく。

開催日	内容	参加者数	スタッフ・協力者
平成19年10月13日(土)	点字で人刺を作ってみよう!	4人	菊野台点字サークル
平成19年11月10日(土)	「ちょうふ」の自然・良さを見つけてみよう!	4人	ねこじゃらし
平成19年12月8日(土)	「わりばし君」の旅、生まれかわるって本当!	6人	わりばしリサイクルグループ「くるりん」
平成20年1月19日(土)	「使用済み切手」は、なんの役に立つの?	6人	すたんぶ菊野台
平成20年2月16日(土)	地域のバリアを見つけに行こう!	11人	ヘルパー有資格者

平成20年 3月 1日(土)	「日本語」でボランティア 外国人の人と話してみよう	10人	調布日本語ボランテ ィアの会
平成20年 3月29日(土)	「おはなし、こんにち は！」他	9人	ゲストと菊野台ボラ ンティア連絡会

## 6 脳トレ健康ふれあいマーじゃん

開 催 目 的	地域の60歳以上の高齢者を対象に、脳と指先のトレーニングを図るとともに、互いの交流とふれあいを目的にして開催した。
日 時	平成19年11月から20年3月までの第1・3火曜日開催 午後1時半から午後4時
会 場	富士見地域福祉センター
参 加 者	23人(延べ225人)
指 導 者	上畑 敏子氏

## 7 高齢者のふれあい健康体操 (富士見コーナー自主サークル)

開 催 目 的	地域の60歳以上の高齢者を対象に、健康増進を図るとともに、互いの交流とふれあいを目的にして開催した。講座修了後、自主サークルとして活動する
日 時	平成19年4月から20年3月までの毎週火曜日開催 午前10時から午前11時半
会 場	富士見地域福祉センター
参 加 者	20人(延べ625人)
指 導 者	大山 典子氏

## 8 シニア男性のための はじめの一步 (染地コーナー)

開 催 目 的	退職したシニア男性の仲間づくりと地域社会への参加のきっかけづくりを目的として料理教室を開催した。	
開 催 日 と 献 立	平成18年11月28日(火) 平成18年12月5日(火) 平成18年12月12日(日)	メニュー 野菜料理の基本 肉料理の基本 魚料理の基本
会 場	染地地域福祉センター	
参 加 費	・3回分材料費 2,000円(料理作りの基礎)	
参 加 者	60歳以上の男性 8人	
講 師	荒井 由紀美 氏 (栄養士)	

## 9 和の布のリサイクル 帽子作り講習会（染地コーナー）

開催目的	古い着物や和の布のはぎれを使った小物をつくることに興味のある方々の、新たな活動を始めるための仲間づくり。		
日時	平成18年9月7日・14日（木）午後1時30分～午後3時30分 全2回		
会場	染地地域福祉センター		
内容	簡単にできる帽子づくり		
講師	西 喜美子氏	参加者数	10人

## 10 おふくろの味 だいこんの甘酢づけ講習会（染地コーナー）

開催目的	19年度から開催予定のおふくろの味講座の前座として開催。おふくろの味のポイントを学び伝えていくこと。		
日時	平成19年3月15日（木）午後1時～午後3時		
会場	染地地域福祉センター		
内容	だいこんの甘酢づけ		
講師	斉藤 隆子氏		
参加費	300円 材料費込み		
参加者	9人		

## 11 染地うたごえ広場（染地コーナー）

開催目的	世代を問わず音楽をとおして、地域の皆さんに楽しんでもらえる場を手作りで企画運営 10月より毎月第三土曜日開催					
会場	染地地域福祉センター					
日時	H.18.10/21	11/18	12/16	H.19.1/20	2/17	3/17
来客者	21人	35人	23人	32人	36人	46人
内容	童謡、唱歌や皆が歌いたい歌のリクエストから全員で歌う。					
参加費	300円（飲み物、茶菓子付）					
企画・運営	染地ボランティア連絡会 染地うたごえ広場プロジェクトチーム					



## 1.2 仲間づくりと自立のための男の料理塾 (緑ヶ丘コーナー)

開催目的	定年後の男性の食の自立と仲間づくり、地域社会への参加を促すことを目的として開催する。	
開催日と献立	平成18年11月21日(火)	肉をメインにした料理
	平成18年12月12日(火)	魚をメインにした料理
	平成19年1月30日(火)	お米を使った料理
会場	緑ヶ丘地域福祉センター	
参加者	60歳以上の男性 4人	参加費 3,000円
講師	野瀬 るり子 氏	

## 1.3 高齢者のふれあい健康体操 (富士見コーナー)

開催目的	地域の60歳以上の高齢者を対象に、健康増進を図るとともに、互いの交流とふれあいを目的にして開催した。
日時	平成18年11月から12月までの毎週火曜日8回 午前10時から午前11時30分
会場	富士見地域福祉センター
参加者	16人(延べ110人)
指導者	尾作 明子氏

## 第7 その他

## 1 調布市市民活動支援センター受託団体選考会への参加

調布市市民活動支援センターの第1期受託期間が平成19年度末で終了することにもない、平成19年11月21日(水)第2期の受託団体を選考する公開コンペが実施され、参加した。

選考の結果、平成20年度より5年間(平成24年度末まで)調布市社会福祉協議会が運営受託団体として決定した。

## 2 他団体会議・講座等への委員、講師、パネラーなど職員派遣

日程・期間	会議・講座名称	主催団体
4月11日	都立神代高等学校 奉仕の時間	都立神代高等学校
5月22日	図書館ボランティア講座	調布市立中央図書館
7月2日	夏休みボランティア活動体験について	私立世田谷学園中学校
7月3日	NPO、NPO法人について	クレヨンキッズ(知的障害児学童クラブ)
7月18日	郷土博物館職員対象ボランティア講座	調布市立郷土博物館
9月20日	図書館ボランティア懇談会	調布市立中央図書館
9月26日	保護者会議(今後の会の運営について)	ゆうゆうくらぶ(知的障害児学童クラブ)
10月18日	武者小路実篤記念館ボランティア講座	調布市立武者小路実篤記念館
10月22日	株式会社ナムコ首都圏リージョン会議(CSR研修会)	株式会社ナムコ
11月13日	図書館ボランティアミーティング	調布市立中央図書館
12月14日	マイクロソフト調布技術センター	マイクロソフト株式会社
2月7日	図書館ボランティアミーティング	調布市立中央図書館
2月13日	地域コーディネーション研修会	東京都社会福祉協議会
2月27日	NPO法人化検討委員会研修会	クレヨンキッズ(知的障害児学童クラブ)
通年	東京ボランティア・市民活動センター運営委員会	東京ボランティア・市民活動センター

### 3 視察対応

他地域からのセンター見学および研修依頼に随時対応した。

日程	団体人等
7月18日	東京ボランティア・市民活動センター主催 都内 VC 新任コーディネーター研修
10月24日	横浜市戸塚区社会福祉協議会
12月18日	狛江市市民協働課
1月19日	埼玉県戸田市コミュニティ振興課
1月31日	川崎市多摩区ボランティアセンター運営委員会
2月21日	日本 NPO センター主催「NPO と行政の対話フォーラム」内特別プログラム
2月28日	狛江市議会議員田中智子氏
3月26日	港区 NPO の支援と協働に関する懇談会

### 4 職員研修

レベルアップを図るためそれぞれの経験年数、職務に応じた研修に参加した。

会議・講座名称	参加人数	主催団体
「心の病」をもつメンバーと活動するためのボランティアマネジメント研修	2人	東京ボランティア・市民活動センター
コミュニケーションゲーム講習会	2人	(特活)フレンドシップセンター
市民創造ファンド5周年記念フォーラム	1人	市民創造ファンド
会計実務講座	1人	全国社会福祉協議会